

## 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院

### スマートベッドシステム導入による業務改善の取組み



病床数 334 床 一般病棟 287 床 集中系 47 床  
看護職員 541 名 看護師 433 名 看護補助者 108 名

#### 《課題・背景》

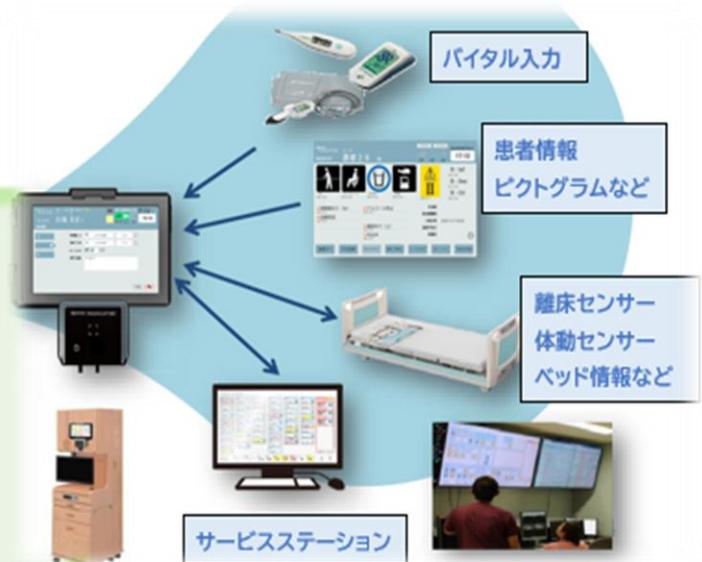
- ◆バイタルサインの入力
  - ・紙媒体記入後の入力に時間がかかる
  - ・医師の確認で看護業務が中断される
  - ・通信機能付を活用できていない
- ◆情報共有(スタッフ・対患者)
  - ・情報がタイムリーに伝わらない(注意喚起・リハビリや検査の時間・退院日など)
  - ・食事量や尿量などを看護師が入力している
  - ・掲示物が多く見栄えの悪さ
  - ・指示変更時の書き換えが発生
- ◆転倒・転落防止対策
  - (転倒転落発生率 2.46%)
  - ・離床センサーの設定や取り扱い、対策が統一されていない

#### 《目的・目標》

- スマートベッドシステム導入することで
- 1 バイタルサイン入力の時間削減、  
転記不要で誤入力をなくす
  - 2 ベッドサイドの掲示物を整理し、ベッドサイド  
端末で多職種間の情報共有がタイムリーにで  
き、その場で患者対応ができる
  - 3 全ベッドに離床センターを設置することで時  
間的削減ができる。  
多職種間で転倒転落防止策がとれる。  
離床センターの設定フローを標準化する

#### 《取組み内容》

- 1 スマートベッドシステム導入
  - ・新病院移転と同時に使用開始
  - ・ワーキングチーム発足
- 2 情報共有・タスクシフト
  - ・ベッドサイドの掲示物を整理する
  - ・食事量や尿量は看護補助者が入力する
- 3 全ベッドに離床センサーを設置
  - ・端末で設定もれや接続外れを把握できる
  - ・離床センターの設定フローを標準化する



#### 《成果・効果》

##### スマートベッドシステム導入後の効果

- ① バイタルサイン測定時間の減少 7分30秒 → 1分34秒  
誤入力率 8.7% → 0%
- ② 食事量や尿量の入力を看護補助者へタスクシフト  
全患者の食事入力までの所要時間 40分 → 20分  
掲示物の整理が出来た
- ③ 転倒転落発生率 2.46% → 0.05%

#### 《ナースセンターから一言》

##### ◎「医療 DX 推進」

県内でのスマートベッドシステム導入の先  
駆者ですね。

◎IT 化で業務改善やチーム医療実現に  
向けて、浦添総合病院の取組み  
は、とても参考になる事でしょう。